

---

# 『囚われのお姫様』

ZZZZ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

『囚われのお姫様』

### 【Nコード】

N0403Q

### 【作者名】

zzzz

### 【あらすじ】

---

氷の塔に幽閉されたお姫様の話

或いは、“仁科 棗”が辿るはずだった末路の話

本作品は、『水面の記憶』の作中で語られる話の抜粋です。

『水面の記憶』 <http://ncode.syosetu.com/n3270n/>

あるところに、気まぐれな悪い魔女にさらわれて、雪の国にある、高い氷の塔の最上階に囚われた、とある国の、美しいお姫様がいました。

このお姫様には、塔から少しでも外に出ると、見るもの聞くもの全てが、正しく見えず、正しく聞こえないという、恐ろしい呪いがかけられていました。

ある日、遠征の果てに辿り着いた国の兵士達が、お姫様を助けに来ました。兵士達は、お姫様に助けに来たことを伝えようと、大声で呼びかけました。

外から聞こえる声に気付いた、お姫様は、それを確認する為に、窓から顔を出して、下を見ました。

しかし、お姫様が目にしたのは、塔の下に群がっている、不気味な怪物の群れが、こちらを見上げていて、怪物共は、そこから飛び降りて、俺達の餌になれと、罵る恐ろしい声が次々に、聞こえてました。

お姫様は怖くなって、小さな窓を閉めてベッドに隠れて、怖くて震えていました。

この後、窓を閉める音で、兵士達に気づいた魔女は、魔法で兵士達を、追っ払ってしまいました。

またある日、今度は隣の国の王子様が、遠路はるばる単身で、お姫様を助けに来ました。

王子様は、お姫様のいる牢の小窓へ向かって、小石を投げて、救出に来たことを知らせながら、魔女に気付かれないように、静かに氷の塔を、よじ登り始めました。

外から聞こえる物音に、気付いたお姫様は、それを確認する為に窓から顔を出して、下を見ました。

しかし、お姫様が目にしたのは、不気味な目玉を手にして、

今まさにそれを、投げつけようとしている、恐ろしい姿の悪魔が、

気味の悪い顔で、あざ笑っているのが見えました。

お姫様は怖くなって、小さな窓を閉めてベッドに隠れて、怖くて震えていました。

この後、窓を閉める音で、王子様に気づいた魔女が、魔法で王子様を塔から落としてしまい、

王子様は、大怪我をしてしまい、逃げ帰りました。

これ以降も幾度となく、救出の手は差し伸べられましたが、お姫様にかけられた呪いのせいで、全て失敗に終わり、救出へ向かう者たちの数は、日増しに減っていきました。

やがて月日は流れて、お姫様の存在は忘れられていき、お姫様も、半ば諦めていました。

ある日、お姫様は窓から、

空を飛ぶ、大きな鷲の姿を見ました。

あの大鷲なら、私をここから、

救い出してくれるかも知れない。

お姫様はこれを、最後の希望と信じてみる事にしました。

お姫様は、大鷲が助けに来てくれる事を願って、

毎日祈りました。

お姫様の願いが通じたのか、大鷲は日が経つことに、

こちらへと、近づいてくるようになり、

ある日ついに、窓の外の柵に止まりました。

お姫様は喜んで、

魔女のいない隙にと、急いで窓から身を乗り出して、

大鷲の足につかまろうとして、

その姿を見てしまいました。

その時、お姫様が目にしたのは、

大きな鷲ではなく、小さな蝙蝠でした。

その蝙蝠は、お姫様に向かって、

もう誰も、お前を助けには来ない、

みんな、お前の事など忘れたのだ、

と、お姫様を罵りました。

お姫様は、その言葉に、  
やはりこれも、失望させられるだけだったと、  
最後の希望を失ってしまい、  
ここまで繋ぎ止めていた心は、ついにくじけて、  
窓から身を投げてしまいました。  
蝙蝠はその鉤爪で、お姫様に掴みかかってきましたが、  
お姫様はそれを振り払い、あとちよつとの所で届かず、  
お姫様は地面に落ちて、死んでしまいました。

お姫様が最後に見たのは、紛れもない大きな鷲で、  
その正体は、大鷲に姿を変えた、  
魔法使いの弟子だったのに。  
魔法使いの弟子は、貴女を助けに来ました、  
祖国では多くの人々が、貴女の帰りを待っています、  
と伝えたのに。  
身を投げたお姫様を、必死で救おうと、  
急降下して、追いかけたのに。

全ての善意は、魔女がかけた呪いのせいで、  
歪んだ悪意としてしか、お姫様には届く事はなく、  
こうして、気まぐれな魔女の悪戯により、  
一人の罪もない、お姫様の人生は、  
短く、そして不幸に、幕を閉じました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0403q/>

---

『囚われのお姫様』

2011年10月7日16時11分発行